

井筒屋町造商店の歩み 2005年 自主企画中心の1年目

開店1年目は、スタッフが企画内容を考えて展示を行う自主企画事業を中心に取り組みました。

スタッフ会議は夜の7時から11時過ぎにまで及ぶこともあり、手探りしつつ走りながら考えるような日々でした。

自主企画中心の1年目 企画展示と3点セット

自主企画中心の運営

井筒屋町造商店の事業は、大きく3つに分かれ、店内の展示としては自主企画による企画展示と貸しスペースに分けることができます。

自主企画	スタッフが企画する企画展示・イベント・コンサート等
貸しスペース	ギャラリーや展示販売のスペースとして貸出し
交流	店番等を通じた交流、広報誌・HP等による情報発信

開店当初に貸しスペースについて利用規約もなく広報もできなかったことや来店者とのふれあいを重視し、展示は自主企画が中心になりました。

企画展示の3点セット

自主企画の展示(企画展示)では、展示のほか、企画の内容をまとめたお話会と冊子の組合せが3点セットで多く採用されました。



自主企画の工夫

参加型企画 開店時の言葉のインスタレーションでは、来店者にも言葉を書いて飾ってもらえるようにしました。このほか、みどりの企画では写真を募集したり、狭山丘陵を歩く機会を設けたりもしました。



また、「さんぱち・もんぱち市」では、もんづくりをしてファッションショーを開催し、まち中を歩きました。

職人技の実演 麻彦商店さんによる

曲げ物づくりや佐藤風呂桶店さんによる桶づくりの実演などを実施しました。



ミニコンサート ミニコンサートも早稲田交響楽団の2人の学生さん以降開かれるようになり、さまざまなミニコンサートが定期的開催され、井筒屋町造商店の事業の大きな柱として定着しています。

井筒屋町造商店が応援してきたピアノ&コーラスグループ JULEPS が秋元康さんのプロデュースにより2007年にメジャーデビューします!!

特技を生かした企画 紙芝居、手品、折り紙、煎茶教室、手作り教室などスタッフや応援してくださる方々の



特技を生かしたお楽しみ企画も、定期的開催しています。

貸しスペース

素晴らしい展示の数々

空間利用の新鮮な提案

貸しスペースの利用規約も決まり、9月からは貸しスペースも入ってきました。ミニ盆栽展、寺尾美音さん、田口和子さん、陶遊展と続き、築百年の空間を工夫し生かして利用してくれました。「自主企画にも参考になる素晴らしい展示が多い」というスタッフの声も多く聞かれました。



ボランティアによる運営

走りながら考える

ボランティア中心の運営

井筒屋町造商店の特色は、ボランティアが中心の運営であり、店番による来店者との交流を重視しています。当初、ボランティアのスタッフのみで店番を担当していました。多くの方と

マチのことなど話し合う機会はとて有意義で楽しいことです。しかし、仕事や日常の用事をもちながらスタッフ間で店番をやりくりするのは、実際には難しい面がありました。

そこで、4月から商工会議所で常駐の店番として榊原美和さんを雇ってくれました。榊原さんが来てくれることで、安定した運営ができるようになってとにも、商店街等とのつながりもいろいろなかたちで増えてきています。また、榊原さんによるブログが5月から始まり、毎日の井筒屋町造商店のできごとを生き生きと情報発信(2006年末カウント数43850)しています。

ふりかえりプロジェクト

基本コンセプトの合意を目指して

深夜に及ぶスタッフ会議

開店後にすべて十分な準備ができていたわけではなく、いわば「走りながら考える」という状況・手探りの状況が続きました。



そういう状況でもあったので、スタッフ間の会議は、真剣な議論がなされつつも紛糾し夜7時頃から始めて深夜11時過ぎにまで話し合いが続くこともよくありました。スタッフ間の意見が食い違う場合に、井筒屋町造商店がどのような場であるのかという基本的な考え方が異なることが多く見受けられました。

ふりかえりプロジェクト

そこで、井筒屋町造商店の今までの活動をふりかえりつつ、基本コンセプトの明確化などを図って、運営原則や組織体制をまとめる「ふりかえりプロジェクト」を設けて、スタッフの有志により4回にわたる会議を開催し「提言」としてまとめました。ここでまとめられた「提言」が、井筒屋町造商店の基本となっており、「理事会」もこの提言に基づいて設けられました。